

日本動物考古学会第1回研究大会 (第2報)

関係各位

謹啓

秋冷の候、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、来月に迫りました日本動物考古学会第1回研究大会のプログラムが出来上がりましたので、送付いたします。口頭・ポスターによる研究発表を申し込まれました皆様におかれましては、別紙の諸注意を御一読の上、ご準備ください。

なお、例年以上に多くの参会者が見込まれますことから、大会、総会会場につきましては、第1報でお知らせしておりました第1校舎2階122番教室から東館6FのG-SEC Lab.へと変更させていただきました。あわせてご承知置きのほどお願い申し上げます。

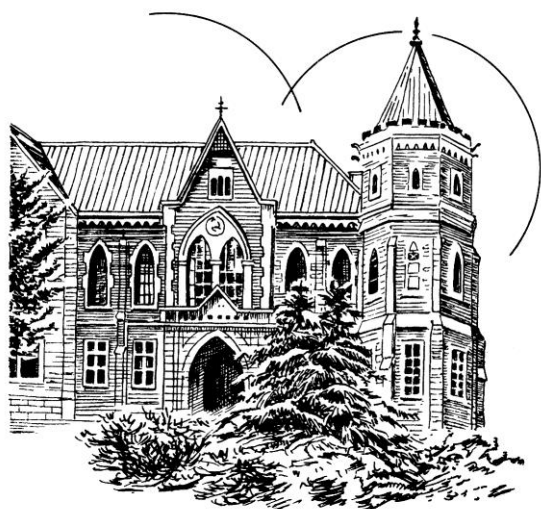
当日皆様にお目にかかれまますこと、楽しみにしております。

啓白

2013年10月10日

日本動物考古学会

会長 西本豊弘



お問い合わせ先

〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

慶應義塾大学 文学部 佐藤孝雄研究室

日本動物考古学会事務局

TEL・FAX: 03-5427-1425,

E-mail: js.zoearch@gmail.com

日本動物考古学会第1回研究大会 プログラム

11月16日(土)

12:15～ 開場・受付

13:00～14:00 総会

14:00～14:15 休憩

14:15～15:15 研究発表 A 座長: 小島秀彰(若狭三方縄文博物館)

A1 ○黒住耐二(千葉県立中央博), 新里貴之(鹿児島大), 高宮広土(札大)

貝類遺体からみた沖縄のグスク文化成立期

A2 ○樋泉岳二(早大), 菅原広史(浦添市教委), 黒住耐二(千葉県立中央博), 新里貴之(鹿児島大),
高宮広土(札大)

グスク文化成立期の脊椎動物資源利用

A3 新美倫子(名古屋大), ○安津由香里(愛知学院大), 鈴木翔太(愛知学院大)

北海道浜頓別町日の出貝塚の2013年調査

15:15～16:00 ポスターセッション

16:00～17:20 研究発表 B 座長: 山崎健(奈文研)

B1 ○松井章(奈文研), 覚張隆史(北里大), 丸山真史(奈文研)

豊後府内町跡から出土した動物遺存体

B2 ○江田真毅(北大), 菊地大樹(奈文研), 袁靖(中国社会科学院)

中国磁山遺跡出土のニワトリの再検討

B3 ○植月学(山梨県博), Tuvshinjargal Tumurbaatar(モンゴル国立博),

Bayarsaikhan Jamsranjav(モンゴル国立博), Erdene Myagmar(モンゴル国立大)

モンゴル国内遺跡出土馬の体高

B4 ○菊地大樹(奈文研), 平澤麻衣子(奈文研), 松井章(奈文研)

3Dレーザースキャナによる動物考古学の新手法

17:20～17:30 記念撮影

17:45～19:45 懇親会

11月17日(日)

9:00～10:00 研究発表 C 座長: 鶴澤和宏(東亜大学)

C1 ○澤浦亮平(東北大), 奈良貴史(新潟医療福祉大), 渡辺丈彦(奈文研), 澤田純明(聖マリ医大),
千葉毅(神奈川県博), 萩原康雄(新潟医療福祉大), 平澤悠(慶大), 金井紋子(慶大),
竹内俊吾(慶大), 佐藤孝雄(慶大)

青森県尻安部洞窟の発掘調査成果(2011～2013年)

C2 ○遠部慎(北大), 畑山智史(東大)

津雲貝塚出土貝類の再検討

C3 ○畑山智史(東大総合研究博物館)

貝殻成長線分析を用いた災害史復元の基礎的研究

10:00~10:15 休憩

10:15~11:15 研究発表D 座長: 植月学(山梨県立博物館)

D1 ○丸山真史(奈文研), 清水和明(大阪文化財研究所)

大坂城下町跡における双六の駒の製作

D2 ○山崎健(奈文研)

東日本大震災の復興事業に伴う発掘調査に対する支援の現状報告

D3 ○鶴澤和宏(東亜大), 関雄二(民博)

アンデス形成期における動物利用-ペルー北部高地に位置する2つの神殿遺跡から出土した動物相-

ポスター発表

P1 ○大塚秀(東海大), 照屋清之介(東大), 畑山智史(東大)

カサガイ類貝殻成長線分析の基礎的研究

P2 ○黒住耐二(千葉県立中央博)

九州を中心としたクマサルボオ製貝製品について

P3 ○安部みき子(大阪市大), 宮崎泰史(大阪府教委)

大阪府四条畷市葺屋北遺跡出土の動物遺存体

P4 ○納屋内高史(富山市教委), 町田賢一(富山県文化振興財団)

富山県氷見市上久津呂中屋遺跡における動物資源利用

P5 ○松崎哲也(京大), 丸山真史(奈文研), 山崎健(奈文研)

復興事業に伴う発掘調査で出土した動物遺存体の概要

P6 ○上奈穂美(歴博), 豊原熙司(第四紀地質研究所)

北海道東部地域でのカワシシユガイの利用

P7 ○猪熊樹人(根室市歴史と自然の資料館)

オホーツク文化期のアイスピックとされる骨器について

P8 ○高橋鵬成(慶大), 佐藤孝雄(慶大)

礼文島浜中2遺跡における動物資源利用の変遷—コラムサンプルの分析を中心に—

P9 ○大西凜(慶大), 澤田純明(聖マリ医大), 佐藤孝雄(慶大)

礼文島浜中2遺跡のオホーツク犬骨

P10 ○服部太一(慶大), 澤田純明(聖マリ医大), 佐藤孝雄(慶大)

礼文島浜中2遺跡のカラフトブタ遺体

P11 ○内田昌宏(富士市立富士第一小)

鯨歯細工・工芸の現状について-大阪のある製作所の事例を中心に-

発表者の皆さまへのお願い

1. 発表要旨

かねてお願いしておりました通り、口頭もしくはポスターによる研究発表を申し込まれました方は、発表要旨を 600 字以内でまとめ 2013 年 10 月 30 日（水）までに E-mail にてご提出下さい。要旨には英題と英語表記による発表者氏名も併記されますようお願い申し上げます。なお、同要旨は、『動物考古学』31 号にも掲載いたしますので、併せてご承知置きください。

E-mail: js.zoarch@gmail.com

2. 口頭発表

■発表の準備

会場には、次発表者席をご用意いたします。前の発表開始時までにご着席ください。

■発表時間

一件当たり 20 分を割当てさせていただいておりますが、内訳は発表時間 15 分、質疑応答 5 分とお考えください。13 分経過（ベル 1 回）、15 分経過（ベル 2 回）、20 分経過（ベル 3 回）をお知らせします。大会を円滑に運営できるよう、時間の厳守にご協力ください。

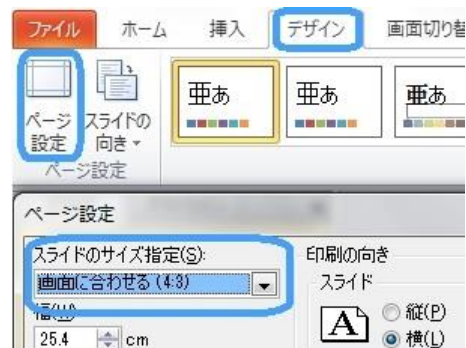
■使用機材

会場には Microsoft Power Point がインストールされました Windows7.0 の PC をご用意いたします。Windows7.0 以外の OS と Power Point 以外のソフトを使用されます方は御自身で PC をご用意ください。

■PowerPoint の画面設定

会場モニタへの画像投影比は「4:3」に設定されております。Microsoft PowerPoint をスクリーンに投影される予定の方は、【デザイン】→【ページ設定】→【スライドのサイズ指定】をご覧の上、【画面に合わせる (4:3)】が選ばれていることをご確認下さい（右記画像の青線部）。

この設定になっていない場合（【画面に合わせる (16:9)】など）は、画像の横幅が縮んで表示されたり文字列の配置が崩れたりすることもありますので、ご承知置



きください。なお、上記メニュー名はいずれも Office2010・2007 の場合です。

3. ポスター発表

ポスターにつきましては、横 90cm、縦 180cm 以内で作成してください。会場には掲示用の画鋏をご用意いたしますので、それぞれご自身の演題番号が記されておりますボードにご自身で掲示をお願いいたします。

4. 配布資料

10月10日時点の参加者数見込み約70名です。当日資料を配布されます場合は、各自で必要部数をご用意ください。当日会場でのコピーのご要望には一切応じかねますのでご了承ください。なお、資料につきまして会場入口脇のテーブルに置いていただいても結構です。

会場と交通アクセス

■ 会場

総会・大会会場 慶應義塾大学三田キャンパス 東館 6F G-SEC Lab.

懇親会会場 // 南校舎 4F ザ・カフェテリア

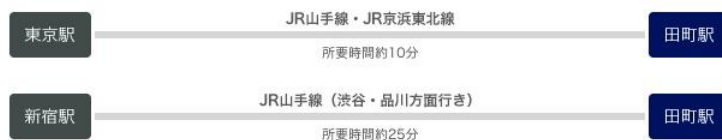
■ 交通アクセス

田町駅（JR山手線／JR京浜東北線）徒歩8分

三田駅（都営地下鉄浅草線／都営地下鉄三田線）徒歩7分

赤羽橋駅（都営地下鉄大江戸線）徒歩8分

主要駅からのアクセス



空港からのアクセス

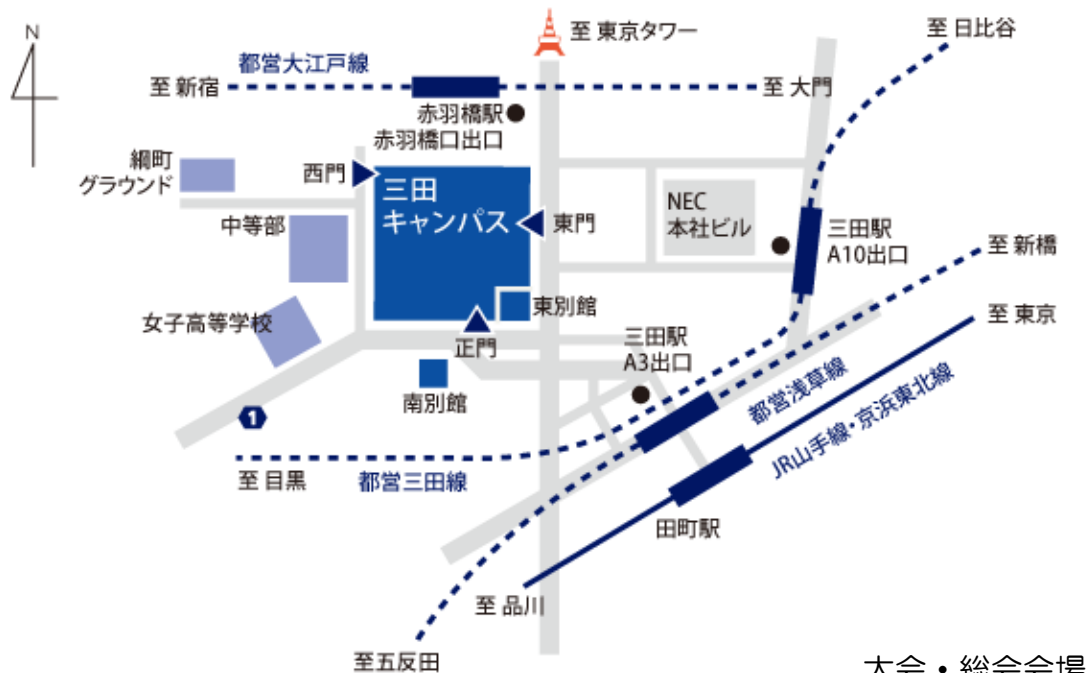


参加費と懇親会費

大会参加費 1,000円 (含む予稿集代金、茶菓代)

懇親会費 4,000円

会場のご案内



大会・総会会場
(東館 6F G-SEC Lab.)



懇親会場
(南校舎 4F ザ・カフェテリア)